

n-3 脂肪酸は多数の心臓血管病リスクのある患者には予防効果はない

心筋梗塞や心不全の経験のある患者に n-3 多価不飽和脂肪酸が有益であることが過去の研究により示されている。本研究では、心筋梗塞を起こしていないが、多数の心臓血管病のリスクやアテローム性動脈硬化症のある患者にこの治療が有益であるかを検討した。

被験者はイタリアの 860 の一般診療医が追跡する集団とし、多数の心臓血管病のリスクやアテローム性動脈硬化症はあるが心筋梗塞を起こしていない患者とした。被験者を n-3 不飽和脂肪酸 (1g/日) またはプラセボ (オリーブ油) にランダムに割り付けた。転帰は死亡、心筋梗塞および脳卒中の発症とした。一年後、イベント発症が当初の予測よりも低かったため、転帰を心臓血管病による死亡または心臓血管病による入院に改めた。12513 人の被験者のうち、6244 人を n-3 不飽和脂肪酸、6269 人をプラセボにランダムに割り付けた。5 年間の追跡期間中、心臓血管病による死亡または心臓血管病による入院となったのは、解析に用いた 12505 人中 1478 人 (11.8%) で、その内訳は n-3 不飽和脂肪酸を処方された 6239 人中の 733 人 (11.7%)、プラセボを処方された 6266 人の 745 人 (11.9%) であった。

多数の心臓血管病のリスクがある患者が日常的に n-3 不飽和脂肪酸を服用しても、心臓血管病の罹患率や死亡率を低下することはなかった。

出典 : New England Journal of Medicine 2013; 368: 1800-1808